



小学生が1日で19×19までかん ぺきに暗算できる本～その4～

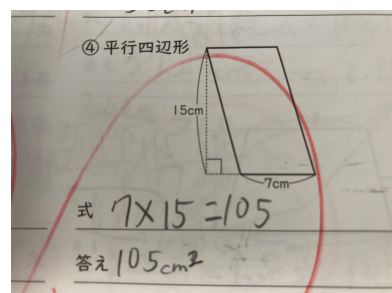


連載の第4回となります。第1回を読まれていない方は[こちら](#)を、第2回を読まれていない方は[こちら](#)を、第3回を読まれていない方は[こちら](#)をご覧ください。

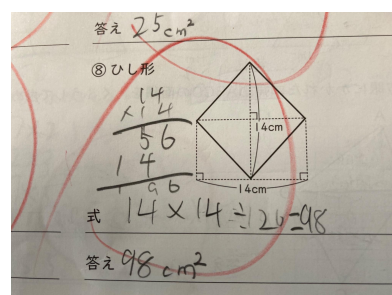
第4回は「14×14～19×19の暗算は、小学生にどれほど必要なのか」を考えてみたいと思います。

前川家の話で恐縮なのですが、ウチの息子の家庭学習を見ていてちょうど良い事例が見つかりましたので紹介したいと思います。

平行四辺形の面積を求める問題です。式は 7×15 です。 7×15 の暗算は4年生の時に暗算の特訓をしているため、暗算で解いています。



菱形の面積を求める問題。式は $14 \times 14 \div 2$ 。14×14は暗算では解けないため、筆算をしています。筆算にどれだけ時間がかかったかは分かりませんが、おそらく1分ほどでしょうか。



このように、5年生くらいになると、他の問題を解くために 7×15 や 14×14 といった計算を楽々こなす必要があります。計算で苦労しては面積の学習どころではありません。「14×14～19×19の暗算はどれほど必要か」という問いに対する結論は「筆算でできれば問題はないが、暗算でできれば確かに便利そうだ」と言えそうです。毎日たくさんの問題を解くのであれば、尚更です。